

機動戦士ガンダム三十年記念

ASUKA (真澄祭版)

前川泰信 作

登場人物

- A 明日香(あすか) 高機能人型機械少女型S508
B 響子(きょうこ) 女子高生 高校一年生
C 未来(みく) Bの妹 小学四年生
D 時江(ときえ) Bの友人 歌手志望
E 優(ゆう) Bの友人 フリーター志望
以下F、Sは可能な限り、次の役を兼ねる KHK所員 同級生 ダンサー 大道具用の黒衣
さらに四人以上は音響と照明を兼ねる。

F フジワラ KHK(高機能人型機械研究所)所員 開発主任

G 黒ずくめの集団・同級生

H 黒ずくめの集団・同級生

I 黒ずくめの集団・同級生

J 黒ずくめの集団・同級生

K 黒ずくめの集団・同級生・最後のロボット

L 黒ずくめの集団・Fの上司 役人

M 黒ずくめの集団・Fの上司 役人

N 黒ずくめの集団・Fの上司 役人

P Bの母

Q Bの祖母

以下、傍線の施された部分・ の部分は、地区大会からの改変箇所。50分以内に収めることと、体育館の狭くて照明設備のない舞台を想定した改変である。

幕開け

真つ暗な舞台。無音。ゆっくりと中央にサス。その光の輪の中に、Aが前習えの格好で立っている。やがて、溶明して周りもぼんやりと明るくなっていくと、周囲に白衣を着た人物(もしくは作業着)が、ころころと倒れている。溶明と同時に静かにME。やがて、Aの足元近くの人物が、かろつじて体を起こし、Aにさわるうつるが、力尽きてまた伏せてしまう。Aは、やがて、とてもぎこちなく下手に歩み去る。

暗転と同時に上手にサス。白衣の人物は左右にはける。それと同時にCが上手から現れサスに入る。

C お姉ちゃん！ お姉ちゃん！

上手花道にサス。中にB。

- C お姉ちゃん、どうしたの？ このころ元気ないよ。コウコウって楽しくないの？
- B 大丈夫だよ、未来。心配しないで。
- C でも。
- B ん？

C ……そうだよね。お姉ちゃんはすごいんだもんね。

B そ、お姉ちゃんはすごいんだから。(指で「ファイター」の合図)

サス消える。暗闇の中から歌声。(大塚愛の『さくらんぼ』のサビ)

溶明すると舞台中央でDが歌っている。足下で座ってノリながら友人B・Eが聞いている。カラオケボックスらしいことが分かる。歌い終わって、みなで「イエーッ」。

B いやー、時江、ほんつとにうまいよね。さすが歌手志望。

D ありがとう。

E あーでも、さすがに聞き飽きたかも。

D うるさい。自分だって毎回毎回アニメの歌ばかり。

E あたしは曲変えてるし。

D 似たり寄ったりじゃん。今日のあれ、なに？ 『桃の木桃の木』って。

E 「ハイジ」のエンディング。

D 誰も知らないっちゅつの。

E 響子は知ってるよね。

B まあ…。

E ほらー。

B でも私、そういうのあんまり出したくないし。

D そっぴいの？

E アニメ好き？

B うん。変な目で見られるじゃない。

E 出そうよ、むしろ。あきらめたら、そこで試合終了だよ。

D 意味分かんない。

E あたしなんて、アニメ好き、お笑い好き、ばりばり出してるし。

B よく恥ずかしくないよね、優。

D あんたはむしろ抑えるよ。以下カット

B でも時江いいなー、夢決まってる。

D 響子は？

B んー、まだ。何の取り柄もないしさあ。

D そんなことないって。まあ、まだ高校入ったばかりだし。

B ってか、なーんかあたし高校入ってからさあ…。

E あたし決まったから。

B えーっ、何？

E フリーター。

D それ、決まったって言わないだろ。

- B 大丈夫？ 優、「不況」って言葉知ってる？
D そんなんじゃやってけないって。
E いけそうな気がする〜。
B もー。なんでフリーター？ 以下カット
E じゃ、「おくらんぼ」出だし、おしまいにする？
D スルーかよ、せっかくの忠告。
E よし、ラーメンでも食べて帰ろっか。
B えー。
D また金龍？
B たまには女子高生らしいと二行ごうよ。
E いいじゃん。食べ盛りだし。
B・D えー。

三人立ち上がり、上手に去る。暗転。下手サスが点く。中に、一人の少女Aが倒れている。サスの中に、小
学生Cが通りかかり、じいっと見つめる。溶明。
上手からB・D・Eがやってくる。

- E いやー、満足。
B 優、なんで二杯も食べる？
E 二杯目は別腹。
D いや、使い方間違ってるし。
E お腹の中で塩と味噌がコラボ。
D もー。明日はパフェ行こ、パフェ。
B 賛成。よし、ほんじゃ。
D またねー。
E ばい。

D・Eは上手に去る。CがBに気づいて、Cの前に回り込む。

- C お姉ちゃん。
B あ？ 未来？ どうしたの？
C 落ちてる。
B 落ちてる？ 何が？
C あれ。
B (倒れているAを見て)え？ ちょっと！

B、慌てて、倒れているAに駆け寄る。

- B これ、落ちてるって言わないの。
C 違うの？

- B 倒れてるのっ。
C 起こす？
B ちよっと待って。

B、Aの手をとって脈を診る。かすかに力ちつと音がする。非常にぎこちなく、むっくりとAが上半身を起す。

B あ…、気が付いた？ よかった！。

C お姉ちゃん、だあれ？

A ……。

B 大丈夫？ 分かる？

C もしもし。

B 立てる？

A 立つ……。

非常にぎこちなく、Aが立ち上がる。よろけるので、二人が両脇から支える。

B 歩ける？

A 歩く……。

A、ゆっくりと歩き出す。二人、脇から支えたまま、下手に歩き出す。

B じゃあね、うち行こう。薬局だから、なんかあるよ。

C 気をつけてね。

B 急がなくていいから。

まがまがしいME。青い舞台。上手下手から、黒ずくめの集団が登場する。人間的な感じがしない動きで、舞台上をあちこち何かを探し回る。なかなか探し当たらない様子で、また上手下手にはらばらと去っていく。入れ替わりに、Aを支えたB・Cが下手から入ってくる。

C ただいまあつ。

上手から、O登場。

Q おかえり。

B おばあちゃん、お母さんは？

Q 店だけど。その子は？

C 拾った。

Q へ？

B ばか。そこでね、なんか具合悪そうだったから。

Q 大丈夫かね、歩かせたりして。

B まあ、なんとか。私の部屋で休ませてあげていい？

Q ああいいよ。(Aに) 大丈夫かい？

A . . .

Q 吐き気とかしない？

B なんかずっとぼーっとしてるのよ。

Q 頭でも打ってなきゃいいけどねえ。

A を、三人でゆっくり座らせる。

Q あまり動かさない方がいいねえ。

B 分かってる。

Q ゆっくりしてって。

Q は上手に退場。

B 大丈夫？

A . . .

B なんてあそこに倒れてたか覚えてる？

A . . .

B 未来、おばあちゃんに何か飲むものもらってきて。

C うん。

B はAに呼びかけるが無反応。やがて、Aの右手親指を握る。

かすかに力ちつと音がする。いきなりすさまじい起動音がして、照明が真っ赤に変わる。Aがむっくり立ち上がる。すごく機械的な動きでそのへんを歩き回る。

B 何これ？

A 各関節部分、試運転完了。

ゆっくりと照明が元に戻り、起動音が静かになっていく。それにつれて、Aの動きが滑らかになっていく。

A が口を開く。 以下カット

B . . . 何、今の？ 以下カット

A 起動スイッチが押されました。

B スイッチ？

A 通常モードで作動しました。

B . . . 一体あんた、何？

A KHK製作、高機能人型機械少女タイプS508です。

B 人型機械？

- A はい。
- B 要するに、…ロボットだって言いたいわけ？
- A 一般的な名称としては。
- B ……まずい。電波系の人連れこんじゃった。
- A いえ、遠隔操作はできない構造になっています。
- B ……どうしてもロボットだと。
- A はい。
- B なんか証拠ある？
- A 証拠。
- B っ、人間に絶対できないことが。
- A では。

A、首を不自然に回転させると、M E。ホリの色が変わる。上下から大勢人が出てきて、二人の周囲を踊って回り始める。

- B 何何？
- A 立体映像です。
- B 映像？

B、周囲の人に触ろうとするが触れない。体をすり抜けるような感じ。やがて、M Eのフェイドアウトと共に、人々は来た方向へと消える。

- A どうですか？
- B いや、…でもなんかそういう新型のテレビとか隠して持つてるんじゃないの？
- A テレビは別です。前の壁を「らんくください。(手を正面にかざす)。(
- B おー、映った。憧れの大画面！ あれ？(画面の右上隅を指して)『アナログ』？
- A 地デジはまだ…。
- B えー…。
- A 映像機能以外では。
- B まだあんの？
- A ……何か要らないものは？
- B あ、えーと…。

A、学校の鞆を漁ると、古いノートが出てくる。

- B じゃ、これ。
- A では、右手の人差し指を押してください。
- B あ、はい

カチツと音がする。M E。

A 戦闘モードが作動しました。

B 戦闘モード!?

A ノートを手でできるだけ体から離してこちらに向けてください。

B ……どう？

B、人差し指でノートに狙いを付ける。

A 攻撃命令をください。

B へ？ あ、え、あー、はいどうぞ。

A イエス・マスター。

一発銃声が出て指から弾丸が発射される。B、思わずノートを取り落とす。

B 何？ 今の。

A 確かめてください。

B へ？

B、ノートを拾い上げると、真ん中に穴が開いている。

B げっ！ その指、銃になってんの？

A はい。

B あぶなっ。ちょっと勘弁して。

A モードの解除は、首の後ろの中央を押してください。

Aが後ろ向きになって、位置を示す。Bが押す。

A 通常モードに戻りました。

B 何？ あんたアメリカかどっかの兵器？

A いえ、日本製です。KHK、高機能人型機械研究所。

B はあ…。

問。

B ほかにモードってあるの？

A 右手の中指を押してください。

B、押す。色っぽいME。いきなり、A、横座りになって、手招きをする。

A カモーン。

B 何？

A セクシーモードが作動しましたあん。

B セクシーモード。そっかあ、やっぱりいるか、そいつの。

A ご好評をいただいていますう。

B でも、女なんです。

A ううん。あなたを新しい世界に連れてって、あ・げ・る。

B 行ってたまるかつ。解除解除！

B、くねくね動くAの頭を前から押さえて、首のうしろに手を伸ばし、スイッチを押そうとする。客観的に見ると、濃厚なキスシーンのように見える。上手からCが入ってくる。

C おばあちゃん、こんなおしかくれなかった…

ME(チゴイネルワイゼン)。ようやく、スイッチを押して、はっと気付くB。Cと少しの間、見つめ合う。

C お姉ちゃんのばかーっ！

B おーい…。

Cが上手に駆け去る。ややあつて、下手からDとEが入ってくる。翌日のBの部屋になっている。

B …というわけ。

D あー、なんといいいいのか。

E 未来ちゃんは？

B 昨日から絶対目を合わせてくれない。

D・E あー…。

B それよりさ、どうする？ この子。

D うーん。

E 来いっていつから来たけどさあ。

D 正直、相談されても。

E ロボット拾うか、普通。

B 落としたやつが悪い！

D ま、そうだけど。

E 元あったところに置いてくるとか。一割もらって。

B できるか！

D 家族は何て言ってるの。

E ロボットって知ってる？

B お母さんは…、お父さんいなくなってからショックに極端に弱くなってるから。

D 言えないか。

B おばあちゃんも体弱ってるし。

D じゃ、家族には秘密？

- B 未来には口止めしたけど。帰るところが分からなくなってるってことにした。
- E 記憶喪失？
- B まあ、そんな感じ。
- D 置いていていいって？
- B しばらくの間だけ。
- E ふーん。 以下カット
- D ……思ったんだけどさあ、名前付けない？
- A 名前。S508ですが。
- D そんな携帯みたいな番号、名前じゃないから。
- E 何がいい？ 以下カット
- B こついつのどうかな？
- D 何何？
- B ……明日香。
- D 明日香。
- E いいね。
- D うん、いい、いい。
- B じゃ、明日香で決まり。いい？
- A 明日香…。
- E いい名前だつて。
- A しかし、名称の変更機能パスワードが分からないので。
- B いいんだよ。みんなで呼び合う名前がほんとの名前。
- A ほんとの名前？
- B そう。
- E よし、じゃあ、お祝いだ。
- E、上手に引っ込み、花を一輪持つてくる。後ろからこもつてくる。
- D あ、未来ちゃん。
- E はい、これ、名前がついたぞ記念。
- B ほかの言い方ないの？
- E ほか？
- B 命名記念とか。
- E ああ。
- C、にやつと得意そうに笑ってEを見る。
- E 何？
- A これ…。
- E あ、あげる。プレゼントだよ。
- A プレゼント。

A、いきなり花そのものをわしづかみにしようとする。みんな、慌てて止める。

E ちよちよちよつ。

D 花がつぶれちゃっ。

B 下から持って。茎のところ。

A つぶれる？

B そ、なんて言えばいい？ えーっと、組織が破壊されてしまっ。

E おーっ。

A 組織が。

A、花を受け取るが、まじまじと見て。

A この部分は既に組織が破壊されてますが。

B そこ茎だから。

A こちらは破壊されてもいい？

B いやー、っていうか。

D きれいでしょ、そっちは。

A きれい？

D 分かんないか。

C あのね。

A ？

C お花は一生懸命咲いてるから、優しく触らないとダメなんだよ。

A 一生懸命？

C うん。先生が言ってた。

B そっか、一生懸命か。(Cの頭をなでる)

D でも、意外なところが分かってないんだね。

B 人間っぽいけど、人間になりきれない感じ。

C 赤ちゃん？

B んー。

E じゃあさあじゃあさあ、あたしたちで、明日香を育てていこうよ。

D 育てる？

A ユーザーの必要に応じて、カスタマイズできるようになっています。

C カスタマイズって？

B 使い勝手のいいように自分で変えること。ほら、未来のクロックス、好きなものいろいろ付けたる？

C あー、カスタマイズ！

D でも明日香、それとは違うよ。 以下カット

B …明日香はさあ、カスタマイズじゃなくて、成長してくんだよ。

A 成長？

B 昨日より今日、今日より明日(あした)って。

- A 人型機械は成長しません。年もとりません。
- E ー。
- D ずつつと今日ってことが。
- B じゃ、…あたしの明日を分けてあげる。
- A 分けて？ でもそんなことをしたら響子さんの明日が…。
- B 大丈夫。明日は減らないから。(指の合図)

青転。明るいME。Aを囲んで四人がいろいろ教えている仕草。やがて、サスが点き、そこへEがAをひっぱっていく。風景を見せて説明しているパント。次にDが引っ張っていき、音楽を聴かせているパント。

ME消える。

以下カット

- C 明日香、明日香！

Aが中央に移動してくる。

- A はい。
- C 鶴折る。
- A 鶴？
- C これ。お姉ちゃんに教えてもらったんだ。
- B この折り紙を折って、それを作る。
- A これと同じものを再現すればいいのですね。
- B そう。いい？

C、一つ一つ折り方を見せようとするが、できあがりを受け取ったAは、鶴を開いて、折り線を確認し、手をかざしてレーザーで一気に線を刻印する。そして、あっという間に完成させる。

- C はやつ。
- B 何したの？
- A あらかじめ、折り線をレーザーで刻印して、一気に折り上げました。
- C すごーい。
- A 正確に速くできます。
- B ーん。
- A だめですか？
- B ……鶴ってね。例えば、千羽鶴とかあるのよ。
- A 千羽。一千個作る。
- B そう。
- A そつなるとなほらに効率を上げるには…。
- B そこなんだよなあ。
- A はい？
- B 未来、千羽鶴の説明。

- C んーとねえ。あのね、例えば、重い病気の人が早くよくなりますようにって言ってみんなで作る。
- B そうそう。たくさんの人がひとつひとつ祈りを込めて折るとここに意味があるわけ。
- A ひとつひとつ。
- C そつ。心が大事。
- B こればつかは買って済ませる人いないわけよ。
- C あのね、一緒にひとつずつ折るんだよ。
- A 一緒に。
- B きれいに折るのは大事だけど、でも、工場みたいに作ったら、いくらきれいでも意味がないだって。
- A 意味がない。
- B あ、ごめん。でも、一緒に手でゆっくり折ってみようよ。
- A はい。
- C 明日香。
- A (向く)
- C ずっと一緒にいようね。
- A はい。…でも。
- C 何？
- A 私には帰らなければいけない所があるような気がします。
- B 帰らなければいけない所？
- C おうち？
- A いいえ。
- B 工場ってこと？
- A (首をかしげる)
- B じゃ、どこ？
- A さあ、その名前がどうしても思い出せないのですが。
- B ふうん。
- C あ、やっぱり明日香、うまい。

照明がゆっくり変わり、三人を囲んで、大きなサスがあたる。ゆったりした心の静まるME。三人が何か話しながら鶴を折っている。それにつれて、舞台の上に、一つまた一つと大きな鶴が現れる。やがて、Eも加わり、さらにDも加わる。

ゆっくりと暗転する。人物と鶴がはけるのと同時に、上手にL・M・N、下手にFが浮かぶ。

- M フジワラ。
- F はい。
- N ずいぶん報告が遅いようだけれど。
- L まーだ見つかんない？
- F なかなか端末にひっかかりません。
- N 悠長なことはやっていられないのよ。
- M 危険性、分かってるよね。

F さすがにあれを目の当たりにすると。

M あんたの丸投げのせいだけだね。(Lを見る)

L おいおい、姉貴も賛成したよね。(Mを見る)

N ちよっと、今はそんな場合じゃないでしょ？

L お前、口出すなよ。

N お姉さんたちがいい加減だから、流通部門としては困っているの！

M ちよっと、こいつと一緒にしないで。

F ああ！ もうよろしいでしょうが。

L・M・N さっさと行きなさい！

N 見つからなかったら、あなたも危うくなるわよ。

F 分かっています。

L 急げよ！

F はい。

M 次が起きる前に始末しないとね。

サス消える。ざわざわした声が暗闇から聞こえ、時折シャッター音やフラッシュがみえる。舞台上が溶明。大勢の同級生が、わあわあ言いながら、A・B・D・Eの四人を囲んでいる。手に手に携帯を持って、Aをばしやばしや撮っている。以下、同級生役は 指定されたセリフ以外も ざわざわと勝手にしゃべっている

Qが上手から登場。続いて、Pも。

Q どうしたね。この騒ぎは。

B なんか、みんなが明日香に会いたいって。

Q え？ その子、歌い手さんか何かだったの？

B ーん。みんな親切なんだよ、身元を探してくれるって。

Q ああ、そりゃありがたいねえ。

P お茶いれる？

B いい、いい。店行つてて！

P・Qが上手に去る。Bは胸をなでおろして、振り返り、Eをにらむ。

B 優！

E ごめん！

B なんて明日香のことしゃべったりするのよ。

D こうなるに決まってるじゃん。

E ちよっと自慢したくてさあ。

B 全く口軽いんだから。

I 響子！ 響子！

B 何？

I ほんつとに、ほんつとにロボットなわけ？

B うん。

- J すげーっ！
- K 何かやって何かやって。
- D 何かって？
- K や、だから、ロボットらしいことよ。
- H はいはいはい！
- K 何？
- H 電子頭脳とかすごいんじゃないの？
- K おー、そうなの？
- B たぶん。
- E もつね、電子辞書なんか比べもんにならないよ。
- J すげーっ。
- I じゃあ、えつと、「IMF」って何？
- A インターナショナル・モニター・ファンドの略。国際通貨基金。為替相場の安定と自由化、及び国際収支の均衡を図ることを目的に、ブレトン・ウッズ協定に基づいて1945年設立された国際金融機関。
- J すげーっ。
- G じゃあ、「あなたの趣味は何ですか？」「はい、じゃあ英（語）、中国語にして。
- A ニーダ・アイハオ・シー・シエンマ？
- J すげーっ。
- K 空飛べるとか。
- K 飛べません。
- J すげーっ。
- K うるさいよ、お前。
- G でもほんとに便利だよな。
- B 便利？
- H だよなー。辞書要らないし。
- I っつか、宿題全部やらせればいいし。
- K 響子、いいの拾ったなー。
- J うらやましーっ。
- B ……いいかげんにしろっ！
- ー 同、しんとする。
- B もう帰れ！ 近所迷惑だから。早く早く！
- 同級生たち、「なんだよー」などと言いつつぞろぞろ下手に押し出される。残った五人、しばらく黙っている。
- E あの…、ほんどこめん。
- A 何を怒っているのですか。
- B あの子達、明日香のことをモノみたいに。

- A モノですが。
- B ちがうよ！
- A 違います。チタンとタンクステンと…。
- B そついうことじゃないの！
- A ?
- D …あのね。モノっていうのは、どついつたらしいのかな。えと、そつ、別のモノと取り替えが利いちやうつてことなんだよ。
- A その通りです。それがそんなにいけないことなのですか。
- B 何がよ。明日香がいなくなつても、別のを持ってきたら、それで間に合つてことなんだよ。それでいいの。
- A はい。同じ型の人型機械を持つてくれれば。
- B そつじゃないよ！ 明日香は明日香なの！
- D そつ、世界でたつた一人なんだよ。モノだなんて言つちやダメだよ。
- A …はい。
- E ごめんね。
- D まつたく。
- B それから、もう敬語いいから。タメ口で話して。
- A タメ口。
- E ああ、そつだよね。
- D そつ、友達だし。
- A 友達？ いつから？
- E しつてる？ 友達つてね、気づいたらもうなつてんの。
- B だね！ 明日香、友達！
- A …友達。 響子！ 時江！ 優！

上手から、Cが入ってくる。

- C どうしたのー。なんかものすごい大勢人が出てつたけど。
- B 大変だつたの。
- D 優がしゃべつちやつて、学校みんなが明日香を観に来ちやつたの。
- C えー。しつかりしろよー。
- E おま（えに言われたくない）…。ごめん。
- D あー、なんか疲れちやつたね。
- E ねー、お腹空かない？
- C 空いたー。
- E じゃ金龍行こ金龍。
- C やつたーつ。
- D またあ？
- B 飽きないねえ、毎度毎度。
- E じゃあさあ、金龍のおじさんに頼んで、みんなで作らせてもらわない？

- C 作る？ すごい。たまにはいいこと言う。
- E たまに？
- D でも、そんなこと出来んの？
- E なんてったって常連ですから。
- B たしかに。

上手奥にサス。中央にD。「ラーメン3分クッキング」のサビを歌い始める。「みーそ」
 周りにダンサーが大勢出てくる。一緒に歌いながら、珍妙な踊りをする。また何人かのダンサーが五人にエ
 プロンをつけさせる。歌と踊りをバックに、D以外の四人はねぎを刻んだり、麵をうったり、チャーシュー
 を切ったりして、ラーメン作りのパントを繰り広げる。「できあがり」
 「いただきまーすっ」で五人が一斉にラーメンを食べる。

- E さいこーっ。
- C ぶー。
- D いけるね。
- C おいしい？
- A はい。
- D へえ！ 味が分かるんだ。
- A いいえ。
- E でも、みんなと一緒に食べてるからね。
- B そう、明日香、これが『おいしい』。
- A うん。

皆で顔を見合わせて笑う。上手下手にサス。それぞれに、LMNとF。

- F 見つかりました。
- L なーにを偉そうに。
- M 遅いでしょ。
- F はい。
- N やっと端末にひっかかったってわけ？
- F いえ、携帯のサイトです。
- L・M・N は？
- F 女子高生の情報網の広さと、口の軽さには、CIAも敵いません。
- M 何、こじやれたこと言おうとしてんの？
- N 高校生が見つけたということ？
- F とうか、拾ったようです。
- L 拾ったあ？
- M 誰？ テロ組織が捕獲してるって言った人。(Lを見る)
- L 姉貴こそ、中東国家の仕業だって。(Mを見る)
- N 結局アメリカが絡んでるってことになったんじゃないかってっけ？

- F 一般家庭に転がり込んでました。
- L あー、めんどくせー。
- M すぐに回収して。
- N 民間人が犠牲になる前に。
- F はい。

三人のサス消える。

F S508、聞こえていたら、君の生まれの不幸を呪うがいい。

Fのサス消える。同時に溶明。中央で、AがD・E・Cと談笑している。もう普通の女子高生と全く変わらない自然な会話。(ポケモン談義をやって盛り上がっている。)それを、上手から出てきたBがじつと見ている。やがて、D・Eは帰り、Cは遊びにでかける。Bとすれ違つ。

- D あ響子、お帰りー。
- E 店？
- B うん。ちょっと手伝い。
- D じゃね。
- B うん。また明日。
- E ばい。
- C 遊びにいつてきまーす。
- B 車に気をつけて。
- C はい。
- A お帰り。
- B ただいま。
- A お店忙しい？
- B まあ、インフルエンザ騒ぎも一段落したし。
- A そう。
- B ……。
- A ? どうかした？
- B ……なんかさあ。
- A ん？
- B ぶつちゃけ、最近、明日香といると苦しいんだ。
- A 苦しい？ 電磁波が。
- B 出していないでしょ。
- A 鉄アレルギー！
- B たぶん違う。
- A はっ、加齢臭！
- B (Aのおでこを張る。)
- A (叩かれた所を手で押さえ、それを目の前にもってきて)ハッ、血だ。

- B あり得ないから。…会話のテンポよすぎ。
- A ごめん。
- B いいけど。…あのさあ。
- A 何？
- B なんて、明日香だけがどんどん素敵になってっちゃうの？
- A ?
- B どんどん人間っぽくなって、女の子らしくなって、いろいろ出来るようになって。
- A 響子たちのおかげ。
- B (少し怒って) そうじゃなくて。
- A 何？
- B 私はさあ、これ以上何かできるようにはならないと思う。
- A そんなこと。
- B あるって。高校入って成績が落ちだしさ。中学校の時の方が、ずっと頭良かった気がする。
- A だってほら、未来ちゃん、お姉ちゃんのこと、いつつもすごいって。
- B 未来は、ちっちゃい頃から私の後ばかりついてきた子だから。
- A ……。
- B 思いこみなんだよ。刷り込みっていうか。今の私を見てないんだよ。
- A そんなことないって。
- B なんか最近、私についてもいなくてもいい感じ？
- A ちがう。
- B 私、成長するほど、自分に値打ちがなくなっていく気がする。
- A … 値打ちが？
- B 成長って何？ 魅力が、うるこみたいに一枚一枚剥がれ落ちていくこと？ じゃ何のために生きてんの？
- A 響子。
- B みんな将来のこと決めてるし、未来だってこれから大きくなっていくし、ロボットの明日香も素敵になっっていくのに、あたしだけ、あたしだけ取り残されてる。
- A そんなことない。
- B どう違うの？ 明日香、頭いいんでしょ？ あたしはどうすればいい？ ばしつと答え出してよ！
- A それは…。
- B あたし、明日が来るのが毎日怖い。
- A … 私には言っておげられる言葉がインプットされてない。
- B 役立たず！
- A ……。
- B あ…、ごめん！ あたし…、ごめん…。
- A ……。

突然、上手から、Cが駆け込んでくる。

C お姉ちゃん！

B どうした？

M E。黒ずくめの人物たちが、わらわらと上手からなだれこんでくる。

B 何こいつら！

A 端末だ！

B たんまつ？

A 近くにあいつがいる！

B あいつ？

A 未来ちゃん連れて逃げて。

B 逃げる？

C どこへ？

A あそこの真ん中突っ切って！

B はあ？

A 大丈夫。あいつら、人間を攻撃できないから。

C 攻撃？

A 合図したら逃げて。

B え？ え？

A ゴー！

BとC上手に逃げる。Aが頭を回転させるとPQDEが現れてAの周りを囲む。

B あれ？ みんないつの間？

A 早く！

B C上手にはける。Aは、じりじりと黒ずくめに迫り、隙を見て上手に駆け去る。去り際に、黒ずくめの一人がAの足をつかむ。

A あっ！

何か損傷したらしく、Aはびっこを引きながら去る。入れ替わりに、Fが上手から駆け込んでくる。

F ちくしょう！ 立体映像だ。追え！

黒ずくめの人物たちとFも上手に大慌てで追う。DEPQは下手に。入れ替わりに、上手から三人が走ってくる。Aは携帯で話しながら。上手から、DとEが駆けつける。Dも携帯で話している。

E いた！

D どうしたの？

B なんだか分からない。

C 真っ黒なのがいっぱい来た。

- D 何なの？
- A フジワラの端末。KNKから送り込まれてきたんだ。
- D 明日香、あんた昔の記憶があるの？
- A あいつら見たら、一気に思い出した。っていうか、たぶん、あつちから何か流れ込んだ感じ。
- B 何しにきたの？ あれ。
- A たぶん、私を処分するために来たんだ。
- E 処分！
- D 処分って？
- A 私を解体して、記憶を消去して、抹殺する。
- B・C・D・E えええっ？
- A たぶん、作業用機械に作り替えるんだと思う。
- B どうして？
- A 分からない。きっと私が何かやったんだ。
- D 何かって？

上手から、PとQが駆け込んでくる。Pはかなり苦しそう。

Q 響子、あれ何だい？

B ごめん、おばあちゃん、私もよく分かんない。あとで説明するから。

Q 説明って…。

B お母さん、大丈夫？

P ちよっとびっくりしちゃって…。

B …未来。

C うん。

B 分かってるよね。秘密って。

C うん。

B いい？ 未来がしっかりして。

C 何？

B 猪鹿町のおじさんちへ、おばあちゃんとお母さんを連れてって。

C え？ お姉ちゃんは？

B 私は行けない。明日香を逃がさないよ。

A 響子。

B みんな協力してくれる？ 危ないかもしれないけど。

E うちらで守れる？

B さつき、明日香が立体映像であんたたちを投影したら、襲ってこなかった。

D 人間を傷つけるわけにはいかないってこと？

A そう。

E そっか、それなら（やれるかも）

A 響子、私は…。

B 何も言わないで。友達だよな。

A . . .

B 未来。頼んだよ。

C 無理。お姉ちゃん、お願い、一緒に来て。

B (深呼吸して) 未来。お姉ちゃんは?

C すごい。

B そう。お姉ちゃんはすごいんだから。お姉ちゃんが言うんだから大丈夫。未来ならやれる。

C . . .うん。

B よし、えらい。じゃ、行きな。

C、PとQをかばいながら、上手に去りかけるが、心細そうに振り返って叫ぶ。

C お姉ちゃーんっ！

B、うなづいて、指の合図。Cもうなづき返して去る。

B そっか。あたしゃっぱりお姉ちゃんなんだ。

D 行こうか。

E うん。

四人は下手に向かうが、黒ずくめの人物たちが、下手から出てきて止められる。振り向くと上手からも来ている。やがて上手からFが登場。

F もう逃げられんぞ。

Aの周りを三人で取り囲む。

以下カット

D 誰?

F KHK人型機械開発主任、フジワラだ。(近づく)

B 友達に触るな!

F 友達? そいつは機械だぞ。

D 分かってるって。

B 明日香をどうするつもり?

F 明日香?

A 私。

F パスワードもなしに、名称変更したのか。はっ、こりゃ驚いた。さすが、制御不能になっただけのことはあるな。

B 質問に答えて!

F 処分するんだよ、もちろん、故障の原因を徹底的に分析してからだけだな。

D 故障?

E 明日香が?

B どこが？

F 言っとくがな。そんなに近くにいとそろそろ危ないぞ。

F、近づいて、Aの肩をつかもつとするが、その腕をEがつかまえて、かみつく。F、痛がってふりほどく。

F かじった？（泣きそうな顔になる）おやじにもかじられことないのにーっ！

B おやじにもって…。

E かじられたことある？

D（首を必死にふる）

E だよねー。

D かじらせてたまるか！

B ねえ、明日香のどこが故障？ もうほとんど人間って言っていいくらい完璧なのに。

F そこだ、問題は。これはな、人間じゃない。あくまで、心おきなく使える道具なんだ。

E これって言うな！

F だから、取えて『人型機械』って呼ぶわけだ。うちは。

B それじゃ友達になれないから、うちらは『明日香』って呼ぶの。

F 機械は機械。機械ってのは、ずつつと同じ機能で古くなったら買い換える。そついうもんなんだ。

以下カット

D ちよつと待って、でも、カスタマイズ機能つけたのはあんたでしょ。

F その通りだ。だから制限を設けた。

A 制限…。

F ああ、それなのに、そいつはな…。

以下カット

B …明日香、右手出して。

E 何何？

B それ以上近寄らない方がいいよ。

F おい！そこを押したら。

B 知ってるよね。後悔しないで。

F おいやめろ。

B 問答無用！いくよつ、戦闘モード！

A（カチッ）うぶくん。

B しまったああつ。

F だからやめるって…。

E わざとやってる？

B ちがうちがう、だからね…。

話している間に、Dが駆け出して行って、Aのスイッチを押す。機械音。

A 戦闘モード入りました。攻撃命令をどうぞ。

D 響子！

B え？あ、えつと、うーん。

E 早く！
B じゃあ、そいつをしばらく追ってこられないようにして！
A イエス・マスター。

A、Fに向けて両手を差し出す。すさまじいマシンガンの射撃音がして、Fがめっちゃめっちゃに撃たれ、体がぐしゃぐしゃになってやがて倒れる。それに従って、周りの黒ずくめもへなへなと倒れる。

B ちよっ！
D やり過ぎでしょ。

E 殺人？ 以下 カット 展開改変

B (Aの首の後ろのスイッチを押しながら)「しばらく」追ってこられないようにって言ったでしょ。

A だから、命令通りに。

D あれじゃ、永久に追ってこられないでしょ。

A ううん。

E どういうこと？

A 彼も、KHKの人型機械なの。

D は？

B そっいえば、端末って何？

A 黒いやつらは、全部フジワラにつながっている感覚器官のようなもの。

D じゃあ、あいつらも全部含めてフジワラ？

A そう。

B っつことは？

A すぐに復活する。

Aが、倒れているFに視線を向ける。つられてみんな見る。ゆっくりと暗くなり、倒れているFの周りだけぼんやりサスが当たる。不安なME。やがて、Fがぴくりと動く。ぐしゃぐしゃの体が、不自然に一箇所ずつカシヤンカシヤンと元に戻っていく。それにつれて、黒ずくめたちもゆっくりと復活する。

F、やがて完全になる。ゆっくりと余人を指さすと、黒ずくめたちが襲い掛かってくる。DとEはアイコンタクトを取ると、手をつないで、黒ずくめたちに立ち向かっていく。

D 明日香！
E 逃げて！

黒ずくめたち、DとEに押されて下手にはける。

A 時江！ 優！

B 明日香！ 二人は大丈夫だから。

AとB、ふりむくとFが立ちはだかる。

F やらせはせんぞ。

B お願ひ。明日香を助けて。

F 無理な話だ。S508、私を見る。

AとFが見つめ合う。

B 明日香？

A あ、うん？

B もう一度戦闘モード。

A 響子、ありがとう。もついいから。

B 明日香！ あきらめないで。闘って。私のために闘って。

A 響子のため？

B あたし分かった。明日香がいてくれるから、あたし…。

A 響子。…だめなんだ。

B どうして！

A 今、私の帰る場所の名前が分かった。

B 名前？

A うん。

B どこ？

A …たぶん、『孤独』。

B コドク？

声 美しい友情が芽生えたようね。

上手からL・M・Nが登場。

B 誰？

M 科学技術省補佐官。

N って言っても興味なさそうね。

L 女子高生相手にどこから説明すりゃいいんだ。めんどくせー。

B 役人？

F この国のロボットに関わる行政を取り仕切るお茶の水三姉妹だ。ニックネームは、順に、コバルト、ウラン、ヒゲオヤジ。

B アトムにしようよ、流れからいつて。

F あの三人がそれぞれ、ロボットの設計、製造、流通の分野を統括している。

B 明日香のことも？

M そつ。KHKは政府が出資して研究開発をさせている機関なのよ。国に楯突くつもり？

B 政府だって関係ない。明日香、いくよ。

L もー、すんなり言うこときけよ。

N (携帯を出して) 非常出撃命令28号を要請する。

M E。四角いロボットが上手からわらわらとたくさん出てきて、二人を取り囲む。

B 何、こいつら。よし、いくよ明日香。

A だめ。

B どうして？

A こいつらには通用しない。

M その通り。

L ロボット開発なんて、このレベルで止めとけばよかった。

N 命令でしか動かないし、金属むきだしで頑丈だし。リセットの必要もないし。

L・M・N ねえ。

F はい。

B どういうこと？

M あまりに高機能になりすぎたってこと。

B なりすぎた？

L そう。その挙げ句に、大事故ときた。

M 制御が確実になるまで、KHKの製品は処分。

N すべてこの型に作り直します。

B 明日香を壊しちゃうってこと？

N そう。同じラインで製造された製品すべてね。フジワラ、いいえ、S501。

F はい。

L・M・N あなたもね。

F … イエス・マスター！

M すぐに分解作業始め(るから)。

B フジワラ。

F、振り向く。

B … よくよく運のない男だな。

F (うれしそうにBを指さし) シヤアの最初のセリフだ。

ロボット、Fを取り囲む。F、ロボットの中に取り込まれる。青転。F、上手に去る。溶明。

L さて、次もさつさと…。

B 待つて。事故ってどういうこと？

N 高機能になりすぎたって言ったでしょ。

B なりすぎたって…。

M 皮肉ねー。機械に開発主任やらせて機械を作らせたなら、人間に近づきすぎたなんて。

L だから、姉貴も賛成したろ？

B 人間に近いつて駄目なことなの？
N …その機械、ほんとに友達だと思ってる？
B もちろん。人間と変わらない。
N お嬢ちゃん、それがどれだけ危険なことか分かる？
B 危険？
A …危険ですね。
B 明日香！
A 響子、私は取り替えられるって言ったら怒ったよね。
B うん。
A でも私はやっぱり機械。
L お、意外と物わかりがいいじゃない。
M その機械が人間と変わらないってどういうこと？ 人間の値打ちって何？
N だから危険なのよ。
B でも！
L あー、めんどくせー。相当入れ込んでるわ、こりゃ。
M 制限を設けて正解だったね。
B 制限？ どういうこと？ さっき、フジワラも言ってた。
L・M・N 人間と全く同じになる寸前に、すべての記憶がリセットされる。
B ええっ？ あ、明日香、さっき言ってた…
A 私の帰る所。
B 孤独。
A そう、孤独。あそこはたぶんそういう名前の場所。
N ところが、その…明日香？ それは、前のリセット段階で暴走したのよ。
B 暴走？
M 自分で言えば？
L どーせ、フジワラから記憶が送られたろ？
A 『すべて消えてしまうなら、なぜ私に記憶を与えた！？』
M E。
B 何？
A 私は戦闘モードをフル回転させて、研究所員をすべて殺害した。
B ええっ！
M 生き残ったのは、試験的に開発主任をやらせていた人型機械のフジワラだけ。
L ほら、機械に主任やらせて正解だったろ？
M ふん。
N エネルギ―をほとんど使い尽くして、その明日香は消えたのよ。
B まさか。
N たぶん、またそれが起きる。
M 分かった？

B

L・M・N では、処分を開始する。

B 待って！

M 何？

B ∴ 私、ずっと自信がなかった。

N 何の話。

B 年を取れば取るほど、自分がだめになっていく気がして。

M ∴ 子供ね。

L ま、私も覚えがあるけど。

M ハンッ！

B でも、明日香がいれば大丈夫な気がする。明日が来るのを怖がらなくてもいい気がするの。

A 響子。

三人

B お願い。

N 世の中にはね。どうしようもないことがあるの。

B

A お願いです。必ず処分に応じますから、最後に響子と話をさせてください。

L あー。ここまで人間くさくなって、まだリセットされないのか。

N このレベルまで、子供がカスタマイズしたなんて。どうする？

M ∴ このエリアを嚴重に囲んどいて。

ロボットたち、二人の周りを固める。三人、上手に去る。

A 響子。

B 明日香。

B、下を向いてしまっ。

B ごめんね。

A ?

B 私にも言ってあげられる言葉がインプットされてないみたい。

問。

A ∴ 響子、最後に∴プレゼントがほしい。

B プレゼント？

A うん。

B いいよ。何がいい？

A ∴ 明日も覚えていて。

B。うん。うん。

A ありがとう。私も忘れない。

B うん。

A (正面に向けて) 処分を開始してください。

機械音が辺りを包む。上手下手にサス。上手が大きくAがロボットに囲まれており、下手が小さくBがいる。

A さよなら。

B 明日香、明日香。忘れないからね。

だんだんAの姿がロボットに埋もれていく。最後に右手だけが見える。その右手が指の合図をする。右手も埋もれ、そしてサスが消える。

B 私の明日の中には、ずっと明日香がいるから。

B のサスも消える。暗転。

ゆっくりと中央にサス。サスの中に折り鶴が落ちている。その光の輪の中に、さきほどの集団を同じ型のロボットが歩いて入ってくる。足下に落ちているものを認めて、立ち止まる。見つめっていると、声が聞こえる。

B 明日香。

ロボット、見るべき方向を見つけたというように、ゆっくりと正面上を見上げる。ロボットが微笑んだように見えながら、幕。